



大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第133号

2024. 3. 1

子どもを知る 学校現場を知る

—大谷大学の魅力を最大限活用して—

大谷大学 教職支援センターセンター長 林 正幸

子どもたちと共に伸びていく教師を目指し、教師に求められる資質能力を身に付けていくことに努力しているところだと思います。その目標を達成するために子どもたちのことをもっと知りたい、子どもたちの考えていることをわかりたい、また学校の先生方の仕事内容が知りたい、学校現場の様子を見てみたいなどと考えている人も多いと思います。

そのために4年生では教育実習がありますが、できればその前に「学校ボランティア」の活動に参加しておくことをお勧めします。小学校教員を目指す教育学部初等教育コースでは1年生時に授業として「実践体験活動演習」がありますが、中学校・高等学校の教員を目指す学生もできるだけ早い時期から「学校ボランティア」を経験しておくことを勧めます。

教育実習に入る前より早い時期に現場に入ること、
「先生」と呼ばれる嬉しさと緊張感を持って、児童・生徒たちの言動や様子が目の当たりにしてわかるし、どのようにして指導すればよいかを考えることができます。自分たちが通ってきた学校の現場ではありますが指導する立場で先生方の動きを見ることができるとは大きいことです。いろいろな場面に応じてこのように児童・生徒と接していけばいいのかがわかります。現場で見たり経験したりした実践はその後の大学での講義や演習の授業でも「こういうことを考えて現場では実践されていたんだなあ」と関連して考えることもあるでしょう。

学校ボランティアに行くことは「児童・生徒との関わり」「教職員の方々との関わり」において意味のあることですが、ただ行くだけでは意味がありません。

毎回目的をもって行くことが大事です。「今日はこんなことを頑張ろう」「今日はクラスの〇〇さんの横について、こんな支援をしてみよう」などのめあてをもって行ってほしいものです。ただ学校は、その日の都合で別の

クラスに入ってほしいと言われることはあることは、承知しておいてください。またボランティアでは当然うまくいくことばかりではありません。「児童・生徒が言うことを聞かない」「どう支援したらいいのかわからない」「どのくらい距離感をもって接したらいいのか」などどうしよ

うと悩むこともあるでしょう。自分で課題解決の方法を考えることはもちろん大切ですが、困った時は学校の担当の先生や大学のアドバイザーなどの先生方に気軽に相談してくれたらいいです。ボランティア先の学校を探す時も、相談してください。



さて、学校現場も変わってきていますが、教員採用試験も変わりつつあります。教員確保のために早期化、複数回化など採用試験の仕組みも大きく変わろうとしています。確かに早期化、複数回化によって受験機会が増えたり、受験者数が増加したりすることはあるでしょう。早期化、複数回化にはメリットもあれば、併願、辞退者などのデメリットもあります。

教師を志望する人が減少している、採用試験の倍率が低くなってきている自治体は出てきていますが、教員採用試験は決して受かりやすくなっているとは、言えません。教員志望者が減少したり、倍率が下がってきたりはありませんが、今後定年退職者が減少したり、子ども人口も減少してきます。いろいろなことが変動します。新しい情報は早く確実に得る必要があります。

そこで「情報は早く確実に得る」ために大谷大学の良さがあります。

大谷大学には教師を目指す人のために「教職支援センター」があり、次のような特色があります。

- ・アドバイザーの先生方が個別に丁寧に指導して下さったり、センターの職員の方々が懇切丁寧に相談に応じたり、対応したりして下さいます。
- ・同じ自治体を受験する学生が多いところは一人で頑張る個人戦ではなく、仲間とチームになって準備しています。
- ・身近な先輩から教育実習の話や教員採用試験の話を直接聞く機会があります。

普段からさまざまな相談や手続き、小論文指導・添削、面接練習等に応じてもらえますが、「教職学習会」や「教員採用試験受験対策講習」などもありますのでどんどん活用していただきたいと思います。



《こんな先生になります》

(採用内定自治体：校種・教科)

《児童の個性を輝かせる先生に》 教育学部教育学科 関 菜乃果 (兵庫県：小学校)

私は、子どもたち一人ひとりの個性を輝かせる先生になりたい。教育実習や学生ボランティアを通して、様々な子どもと関わってきた。授業で率先して発表ができる子、困っている子を見つけたらすぐ助けてあげる子、どんなことも最後までやり遂げようとする子。どの子にも、それぞれ違った輝く個性や魅力があった。そんな素敵な自分を、友達を、互いに認め合い、尊重し合える学級をつくっていく。そのためにも、私自身が子どもをよく理解し、可能性を信じ、側で寄り添っていきたい。

《児童の居場所を作れる先生に》 教育学部教育学科 八木 彩香 (千葉県千葉市：小学校)

私は、子どもたちが「この先生にだったら話せる」「相談や悩みを親身になって聞き、一緒に考えてくれる」「この学級にいれば安心できる」と思えるような安心できる居場所を作れる先生になりたい。そのために、日々子どもたちとの関わりを大切に、子どもの声に耳を傾けることや喜びを一緒に分かち合うこと、子どもの視線に立って様々なことを考えることを大切にしていきたい。

《生徒に寄り添う教師に》 文学部文学科 辻 真琴 (滋賀県：高等学校・国語科)

私は生徒に寄り添う教師になりたいと思っています。ありふれた表現ですが、たくさんの生徒一人ひとりを観察し、気持ちを汲み取り理解するとなると難しいことだと思います。すぐに出来るようになることでは無いと思いますが、たくさんの生徒と関わり経験を積み、少しずつ寄り添えるようになりたいと思います。そしていつか自分の恩師のように生徒の心の支えとなれるような、そんな教師を目指して努力をし続けます。

《採用試験対策法》

(採用内定自治体：校種・教科)

《何度も繰り返すこと》 教育学部教育学科 木下 武人(大阪府：小学校)

採用試験対策の勉強をとにかく何度も繰り返していました。特に面接や模擬授業の練習はアドバイザーの先生方をお願いして週に一回以上継続して取り組むようにしていました。何度も繰り返す中で自分が答えやすい質問や逆に答えにくい質問等があることに気付くことでより対策を立てやすくなりました。また、色々な先生に見てもらうことで常に緊張感を持ちながら練習することができ、本番の時に自信を持って臨む事ができたと思います。

《教員採用試験は団体戦》

教育学部教育学科 藤 祐真(滋賀県：小学校)

私が教採を振り返って一番伝えたいことは、教員採用試験は、団体戦であるということである。今、どの自治体でも面接試験が行われる。採用が人物重視であるからだ。本番は、いかにいつもの自分を出し、伝えたい事を自分の言葉で簡潔に述べる事ができるかにかかってくる。面接練習では、様々な友達の良いところを吸収、改善点はお互いに気をつけ合う。様々な先生にみてもらい沢山の面接官の視点を得る。団体で試験に挑み、自分の思いと他者の資質・能力をアクセントに自分に磨きをかける。大谷大学チームで合格を掴み取りにいきましょう！

《最後まで努力し続けること》

教育学部教育学科 末原 真奈(広島県広島市：小学校)

試験に受かるための秘訣は、最後まで努力し続けることだと思います。正直なところ、毎日同じテキストを開いて毎日長時間勉強することに苦痛を感じなかった日はありません。しかし、これまでの失敗経験や後悔した日々を思い返すと「教採は絶対に一発で受かる」という強い気持ちが持てました。また、支えて下さった周りの方々にいい結果として恩返しをしたいという気持ちも大きかったです。自信が持てた状態で試験に挑めると努力が報われると思います。頑張ってください。

《仲間と共に高め合う》

教育学部教育学科 別符 友南(滋賀県：小学校)

私は、筆記試験に向けて10年分程の過去問に挑戦し、間違えたところは解説を見てノートにまとめ、理解ができるまで何度も問題を解きました。小論文では、1日1題書くことを目標にし、アドバイザーの先生に見ていただきました。集団面接や個人面接では、必ず仲間と共に練習をし、ゼミの先生やアドバイザーの先生にお願いをして指導していただきました。仲間と共に勉強や面接練習をして、高め合いながら頑張ることが合格の秘訣であると思います。

《協力とストレスフリー》

文学部文学科 川井 俊輝(大分県：中学校・国語科)

協力とストレスフリーというのが私の採用試験合格の秘訣です。

採用試験の範囲はとても広く、長い勝負になります。そのため、友人と協力して取り組むのをおすすめします！また、私は教職支援センターにある資料を活用したり、先生方に指導をお願いしたりしました。身近に活用できるものは沢山あります。自分に合った学び方を探してみてください。そして、日々楽しく学ぶことも大切だと思っています。

自分の理想とする教員ならどうするか想像しながら学ぶのは結構楽しいですよ。

《対策講座と問題集》

文学部歴史学科 廣瀬 勇弥（愛媛県：中学校・社会科）

私は、採用試験に向けて2つの対策をしました。1つは、大学が行っている対策講座を受講しました。対策講座の中で教職教養の勉強や面接対策を行いました。教師の経験がある人ばかりなので教師目線からアドバイスをもらえるため受けて損はないと思いました。また、教職アドバイザーの方と仲良くなることで小論文の添削を毎週していただいたので自信をもって試験に挑むことができました。2つ目は問題集をやりまくることです。特に専門教科の勉強に関しては、教育実習先の先生方に「中学校の社会の問題を解いたらいいよ」とアドバイスをもらいました。実際に解くと今までの復習になり、とても役に立ちました。もちろん受ける自治体の過去問を解くことも傾向を知ることができ、重要なことです。以上のような勉強を行うことで自信をもって採用試験に臨むことができると思います。自分は当日、ピンチに感じるようなこともありましたが、平常心をもって臨んだことで合格できたと思います。

《笑顔・自分を信じる・感謝》

文学部歴史学科 鎌田 大翔（大阪市：中学校・社会科）

私が行なっていた勉強方法としては、大学内で空き時間があると空き教室を探してみんなでホワイトボードを使い試験問題を解いていました。自宅では、大阪市は第一次選考時に思考力などが問われる問題があり、第二次選考時には場面指導があるので公務員試験問題やネットで調べて対策をしていました。

私が考える合格できた理由は、勉強は大前提として面接時も笑顔を大切にして自分の言葉で思いを伝えること、自分を信じること、家族・友達など協力してもらった方々に感謝すること、この三点を大切にしたことではないかと思います。

《教職を目指す皆さんへ》

（採用内定自治体：校種・教科）

《なんとかなる！》

教育学部教育学科 采野 真菜美（滋賀県：小学校）

大谷大学では採用試験に向けてだけでなく、教師になってからも役に立つ知識や技能が身に付けられます。小規模な大学ならではの手厚いサポートを受けることができるので、たくさん頼ってください。そして中には、「自分は教師になれるのか。」と不安を感じている人もいます。自分のペースで良いのです。周りの人と比べて、自分はできないと思わなくても良いのです。「なんとかなる！」という気持ちを持ってみてください。少しでも不安を感じている人にこの言葉が届くことを願っています。

《感謝の気持ちを忘れずに》

教育学部教育学科 三宅 澄夏 (滋賀県：小学校)

大谷大学では、多様な先生の教育観や周りの友達の多様な考えに触れることができ、私自身大学で視野が広がったと感じています。教育実習では、準備に時間がかかりしんどいこともあります。しかし、子どもたちは協力してくれますし、時間をかけたものほど子どもたちの反応が良くなり、授業を子どもたちと楽しむことができました。どのようなことに対しても、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに、友達と励まし合いながら頑張ってください。応援しています。

卒業する4年生の皆さんへ

自らの夢を大きく膨らませて、社会に歩み出そうとしている4年生の皆さん。新年度から教員や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など、進路は様々ですが、決めた道を力強く歩んで行ってくれることを願います。今は、希望と不安が入り混じる気持ちでしょうが、まずはこの4月からの行動すべきことをイメージしながら、一日一日を大切にしてください。(教職アドバイザーより)

**教職アドバイザーはこんなことをしています！**

- ① 教職や教員採用試験に関わる相談対応
- ② 教員採用試験対策練習
- ③ 学校ボランティアの紹介(主に京都市立学校)

その他、教職に関わることであればどんな些細なことでも相談に応じます。また、以下のような講座やセミナー、説明会等を実施しています。

- ・教職学習会(1、2年生対象)
- ・小論文セミナー(3年生対象)
- ・願書記入説明会(2、3年生対象)
- ・教員受験対策講習(4年生対象)《有料》

教職アドバイザーの在室時間 (昼休み13:00～14:00は除く)

	月	火	水	木	金
須 川			12:00～17:00	12:00～17:00	12:00～17:00
桂	10:30～16:00	10:30～16:00	10:30～16:00	10:30～16:00	
美濃部	12:00～17:00		12:00～17:00		12:00～17:00
佐 藤	12:00～17:00	12:00～17:00	12:00～17:00		

アドバイザーは4号館1階の教職支援センター事務室で皆さんを待っています。教職に関わることであればどんな些細なことでも相談に応じます。遠慮なく訪ねてきてください！

新4年生の皆さんへ

教育実習や教員採用試験に向けて努力を重ねている新4年生の皆さん。昨秋に実施した小論文セミナーには多くの皆さんが参加して論文作成に挑みました。その熱意はアドバイザーにも伝わり、とても力強く感じました。センターではたくさんの論文題を用意しています。春休み中も継続して論文練習に取り組みましょう。

さて、いよいよ採用試験まで数か月となりました。試験時期の早期化、3年生受験の広がりなど、試験制度が変わりつつある時期ですが、まずは、試験本番までの日々をどのように過ごしていくかが、大きなポイントです。残り数カ月を自分の教育観を明確にさせながら、筆記試験対策と並行して論文や面接などの表現対策を積み重ねていきましょう。またそうした試験対策と共に自らの人間性を育む活動も大切です。限られた時間を有効に使って計画的に進めていってください。

教職支援センターは、皆さんの夢の実現をお手伝いします。教員採用試験に向けての支援を惜しみません。センターでは大量の情報と経験豊富なアドバイザーが皆さんを待っています。気軽にセンターを訪ねてください。

**新3年生、新2年生、新1年生の皆さんへ****【3年生受験が広がっています】**

教員採用試験の倍率低下が危惧される中、ここ数年、その内容や時期が大きく変わってきています。特に、従来の4年生に加えて3年生でも採用試験の一部を受験できる自治体が多くなってきてきました。早くから準備を始めることはもちろん、現状を知ること、情報をもつことが大切です。教職アドバイザーは教職に関する様々な情報をもっています。遠慮なく事務室に来てアドバイザーに声をかけてください。

【今夏の教員採用試験で3年生受験が可能な自治体】（2024年2月末時点）

- ・北海道札幌市・新潟県・新潟市・群馬県・栃木県・山梨県・茨城県・埼玉県・さいたま市・東京都・神奈川県
- ・横浜市・相模原市・川崎市・千葉県千葉市・岐阜県・愛知県・名古屋市・富山県・石川県・福井県・三重県
- ・滋賀県・京都府・京都市・大阪府・大阪市・堺市・豊能地区・兵庫県・神戸市・奈良県・岡山県・岡山市
- ・広島県広島市・香川県・愛媛県・福岡県・北九州市・佐賀県・鹿児島県 ※詳細は各自治体HPでご確認ください

令和6年度 公立学校教員採用試験 合格者人数

小学校	22人	京都市2 滋賀県11 大阪府1 兵庫県1 北海道1 千葉県1 川崎市1 浜松市1 三重県2 広島県1
中学校	4人	大阪府1(国語科) 大阪市1(社会科) 愛媛県1(社会科) 大分県1(国語科)
高等学校	1人	滋賀県1(国語科)